

62 「災害時の発達障害児・者支援について」のウェブサイト掲載

—発達障害情報センターにおける東日本大震災時の情報提供—

研究所 発達障害情報・支援センター¹、障害福祉研究部²

東江浩美¹、金 樹英¹、鈴木繭子¹、車谷 洋¹、北村弥生²、深津玲子¹

1. はじめに

発達障害情報センター（現、発達障害情報・支援センター、以下情報センター）では、東日本大震災発生直後に「災害時の発達障害児・者支援について」というページをウェブサイト（<http://www.rehab.go.jp/ddis/>）に設け、「被災地で、発達障害児・者に対応されるみなさんへ」の記事を3回に渡り掲載した。以下がその経過である。記事の詳細に関してはウェブサイトを参照いただきたい。

2. 「被災地で、発達障害児・者に対応されるみなさんへ」の概要

(1) 作成の目的は発達障害児者や周囲の人々が災害直後の混乱期であっても安心した生活が送れるように、発達障害への対応の留意事項を知らせることである。対象は発達障害児者と家族、支援者（ボランティアも含む）および被災地で共に生活する一般の方々を想定した。(2) 編集方針は刻々と変遷していく被災地のニーズに即していること、留意事項が集約され簡潔であること、発達障害が明らかでなくても参考にできるよう多くの人に共通の事項であることとした。(3) 情報センターの担当課である厚生労働省障害福祉課が現地のニーズを発達障害者支援センターや自治体などから収集した。情報センターでも報道やインターネット情報から現地の状況を知るように努め、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震での過去の報告なども参考にした。(4) 児童精神科医、言語聴覚士、心理士が協力して素案を執筆し、その後厚生労働省担当課との間で修正・加筆を繰り返した。情報センター会議でも検討し、最終案は発達障害者施策検討会委員長が校閲し決定稿とした。(5) 3月中に3つの記事を作成しウェブサイトに掲載した。3月24日には避難所での掲示・配布用にPDF版を作成した。4月26日には3つの記事の主要部分に各県の相談窓口を追加したリーフレットも製作した。(6) テーマと内容：(その1) 3月15日掲載。「すぐにでもできること」をテーマに避難所で支援に携わる方や、家庭で一緒に過ごす家族に理解しておいてほしいこと、協力いただきたいことを記載した。(その2) 3月18日掲載。「知識のある人を活用しよう」をテーマに主に避難所での生活を想定し、周囲の人の援助で生活をスムーズにする工夫を記載した。(その3) 3月28日掲載。「困っていることに気づくには」をテーマに、発達障害児者や家族が困っている様子に周囲が気づくための知識とコツについて記載した。(7) 一日あたりの訪問数は、震災前は平均700～800件であったが、震災後2週間は1100～1200件と約1.5倍に増加した。ページビュー数は3月16日にウェブサイト開設以来の最高値2728件を記録した。

3. まとめ

(1) 緊急時の対応についてポイントを絞った情報を短時間で提供することができた。(2) 今年度実施する被災地での発達障害児者のニーズ調査の中で、今回の記事の効果も明らかにする予定である。